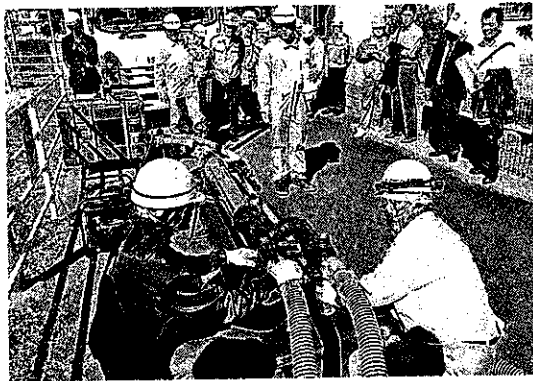


アイスピグ管内洗浄工法 環境開発が見学会開催



（株）環境開発（福岡市博多区吉塚）は26日、アイスピグ管内洗浄工法の見学会Ⅱ写真Ⅱを、福岡県宇美町の汚水管渠清掃現場で開いた。管内にアイスシャーベットを注入して汚れや夾雑物を擦り取る工法で、マンホールポンプの下水道では今回九州で初めて採用された。見学会には福岡県など周辺自治体、コンサル関係者が参加した。同工法

を使ったのは、宇美町発注の汚水管渠（浦田庄送管）清掃調査業務。管径はφ75mm、洗浄距離は約188mになる。

この日の作業は、同社プラントで製造したアイスシャーベットを、アリバリーユニットで現場に輸送し、管内に注入して汚れや夾雑物をこそぎ取り、最終的にバキューム車で回収する流れで実施した。アイスシャーベットの

トは水と塩でできており、人体への影響はない。

注入されたアイスシャーベットは管内でアイスピグ（管内面の汚れを擦り取る能力に優れた、氷の割合が多いアイスラリー）を形成し、3分ほどで約188m先の回収口に到達した。回収口に設置した透明なアクリル管を通過するアイスピグを見ると、最初の方は黒く汚れ、ごみのようなものも交じっていたが、段々と無色に近づいていき、管の中がきれいになったことが分かった。

同工法は全国で数十件の作業実績がある。同社担当者は、「管渠に与える影響が少なく、多種多様な管に対応できる」とメリットを説明した。問い合わせは同社、電話092-6111-5231番。